

X II 地域貢献

* 個人の活動は、X IIIの教員の研究・社会貢献活動 参照

* 『教育学部における地域連携活動 平成 22 年年度 (2011. 3)』 編集ならびに発行：茨城大学教育学部地域連携委員会、茨城大学教育学部附属教育実践総合センター、A4 版 41 頁 参照

1 茨城県教育委員会との連携活動

(1) 茨城県教育研修センターへの講師派遣

平成 22 年度 10 年経験者研修の講師は以下の通りである。

松村多美恵	講義・演習「障害のある児童生徒のアセスメントと指導」(小・中)	平成 22 年 8 月 23 日
新井 英靖	講義・演習「センター的機能と特別支援教育コーディネーターの役割(特)	平成 22 年 12 月 1 日
上地 勝	講義「生活習慣病の予防」(養)(栄)	平成 22 年 6 月 24 日
守屋 英子	講義「児童生徒の発達課題」(養)	平成 22 年 7 月 9 日
上地 勝	講義「生活習慣病の予防」(養)(新栄教)(栄)	平成 22 年 6 月 24 日

(2) 学びの広場サポートプラン事業への学生ボランティア派遣

茨城県教育委員会義務教育課が主導して計画、実施された。実施要項も定められた。水戸市立稲荷第一小学校のサポーター募集に協力した。

(3) 県立鹿島灘高校と県立結城二高へのキャンパスエイド派遣

高校教育課と連携して、県立鹿島灘高校と県立結城二高へキャンパスエイドを派遣している。大学院学校臨床心理専攻修士 1 年 10 名(臨床心理基礎実習の一環として)、学部 4 年生 6 名(心理臨床援助法実習の一環として)。

(4) 茨城県・体育授業サポート事業

平成 22 年度の派遣学生は以下の通りである。

・川又 大輝	3 年次	派遣先：水戸市立上大野小学校
・鈴木 浩二	3 年次	〃
・大沼 美穂	3 年次	：水戸市立山根小学校
・山田 駿	3 年次	〃
・秋川智恵子	3 年次	：水戸市立河和田小学校
・金子 佐織	3 年次	〃
・片岡奈都美	4 年次	：水戸市立酒門小学校
・井坂 絵美	4 年次	〃

2 各地教育委員会・学校との連携事業

(1) 水戸市教育委員会

水戸市内の学校園に学生ボランティアを派遣業務は、水戸市側は水戸市総合研究所、大学側は付属教育実践総合センターが窓口になっている。教育総合研究所運営委員会にセンター教員(村野井)が入っている。資料「学校ボランティア」参照。

理科支援委員配置事業への協力は以下である。

水戸市理科支援員 活動状況

	学校名	支援希望 人数	活動人数
1	新荘小学校	2	2
2	城東小学校	2	2
3	吉田小学校	3	1
4	河和田小学校	2	2
5	千波小学校	4	2
6	双葉台小学校	4	4
7	笠原小学校	3	2
8	堀原小学校	1	1
9	稲荷第一小学校	2	2
10	内原小学校	1	1
11	五軒小学校	2	2
	計	26	21

(2) 鹿嶋市教育委員会

① 国語教育に関する講話

- ・鹿嶋市立大野中学校
- ・講師：昌子 佳弘 先生

②算数教育

- ・鹿嶋市立三笠小学校
- ・講師：小口 祐一 先生

(3) 東海村教育委員会

小学生スポーツ大好き夏期講座「苦手な種目を克服しちゃおう」

- 共 催 SC スマイル TOKAI、東海村教育委員会
- 協 力 東海村体育指導委員会、(財) 東海村文化・スポーツ振興財団
茨城大学教育学部
- 開催目的 スポーツ特に器械運動が苦手な小学生を対象に、跳び箱、マット、
縄跳び、鉄棒の4種目を楽しく体験し、上達へのきっかけ作りの
場を提供し、自信を深めてもらう。
- 開催日時 平成22年8月10日 10:00~15:30 東海村総合体育館
8月11日 " "
- 8月12日 " 石神小学校体育館
- 参加学生 東條 隆介 (工学部3年生) 茨城大学体操部員
高山 尊臣 (") "
天野 創 (理学部1年生) "
篠田 尚美 (教育学部2年生) "
郡司 遼平 (教育学部4年生) 体育系学科所属学生
山崎 愛莉 (") "
弓削真理子 (") "
鈴木 麻理 (") "
仲島 知幸 (") 特別支援教育学科

鈴木 渉（教育学部 2 年生）技術科

東海村立村松小学校なわとび大会支援

協力内容 模範演技と指導

○開催 平成 23 年 1 月 26 日（水）

○参加 教育学部体育系 3 年生

・江尻亜季美

・遠藤 園子

・城所 舞

・砂川絵里佳

・堀内 仁絵

教育学部体育系 4 年生

・鈴木 麻理

・片岡奈都美

・横瀬 彩

・永作 優貴

・井坂 絵美

3 茨城県教育研究連盟との連携活動

(1) 第 55 回茨城県教育研究連盟研究集会の開催

10 月 9 日（土曜日）に茨城大学で、教育研究連盟研究集会が開催された。23 分科会に約 600 人の先生達が集まった。全体会は講堂で行なわれ、茨城県教育委員会教育長、鈴木欣一氏のあいさつや茨城大学教育学部長、尾崎久記のあいさつもあった。

(2) 平成 22 年度茨城県教育研究連盟助言者名簿

番号	研究分野	助 言 者	
1	国語教育	大内善一	
2	外国語教育	猪井新一	
3	数学教育	小口祐一	
4	社会科教育	村山朝子	
5	理科教育	山本勝博	大辻 永
6	生活科・ 総合的な学習	杉本憲子	岡部千草
7	技術教育	竹野英敏	
8	家庭科教育	山本紀久子	
9	音楽教育	田中健次	
10	美術教育	島田裕之	向野康江
11	保健教育	瀧潭利行	
12	体育・保健体育教育	渡邉詩司	
13	特別活動	小沢 浩	
14	道徳教育	生越 達	
15	生活指導	三輪壽二	
16	進路指導	望月厚志	
17	環境教育	郡司晴元	

18	情報化と教育	開田 晃 央	本 田 敏 明
19	幼年期の教育と保育問題	渡 部 玲 二 郎	
20	特別支援教育	束 條 吉 邦	
21	教育条件整備 と教育の問題	小 川 哲 哉	
22	個性の尊重とその評価	村野井 均	
23	人 権 保 障 と 共 生 の 教 育	岡 本 研 二	

(3) 教育研究連盟改革検討委員会への協力

茨城県教育研究連盟研究集会に関わる諸問題について検討委員会を設置し、各構成組織において意見交換し、原案を作成することとなった。茨城大学からは、事務局長の巽申直と村野井均が参加した。

(4) 「茨城の教育」のWEB化への協力

上記改革検討委員会において検討課題となった機関誌「茨城の教育」は、茨城大学教育研究所にホームページを作り、デジタルデータとして保存し、閲覧しやすくすることとした。

4 学校ボランティア派遣

(1) 今年度のボランティア派遣事業

今年度からはボランティア情報を携帯電話など登録したアドレスに情報提供できるようにした。年度初めの一括申し込み以外にも、各学校から様々なボランティア要請があり、そのような募集にも対応できるようにした。今年度のボランティア派遣は、水戸市、県双方合わせて派遣数74件、派遣人数は延べ252人であった。

1-1 水戸市教育委員会との地域連携協定に基づく学校支援ボランティア

水戸市教育委員会との地域連携協定に基づく学校支援ボランティアには、水戸市教育委員会から活動証明書が発行される。

水戸市教育委員会との地域連携協定に基づく学校支援ボランティア活動状況

	活動数	活動人数
幼稚園	7	25
小学校	14	51
中学校	5	10
計	26校	86人

事業担当者

- ・水戸市総合教育研究所 篠原 勤 浅野 正樹 水越 健一
- ・茨城大学教育学部
教育実践総合センター 村野井 均 鈴木 一司 鯉淵 良子 藤根 孝子
総務係 菊池 夕子

1-2 茨城県内教育支援ボランティア

茨城県内教育支援ボランティアは、茨城県内の教育関連機関から随時、募集が来る。実践センターでは、内容や安全性の確認を行ってから、学生へ情報提供をしている。

茨城県内教育支援ボランティア活動状況

	依頼件数	活動件数	活動人数	活動内容
学校関係(小・中・特別支援学校)	36	29	109	学習支援、活動補助、運動会等学校行事支援等
教育委員会	5	3	7	陸上記録会補助員、大洗町チャレンジ教室学習サポーター等
社会教育関係	10	7	13	公民館・子供会・学童クラブ指導補助、放課後子ども教室指導員等
社会福祉関係	13	6	15	視覚障害者コンサート支援、茨城学園夜間指導補助員等
その他	4	3	22	茨城県警大学生サポーター、常陸そば収穫体験、保育補助等
計	68	48	166	

(2) ボランティアフォーラム「ボランティアで何を学んだか」の開催
教育実践総合センター企画「ボランティアで何を学んだか」が開催された。

日 時 平成 23 年 2 月 22 日(火) 13:00~14:30

場 所 教育実践総合センター 3 階 ゼミナール室

【関係者】

教育実践総合センターよりセンター長村野井均、客員教授 岡部千草、非常勤講師 鈴木一司、非常勤講師 三浦忠雄、水戸市学校支援ボランティア担当 鯉淵良子、茨城県内教育支援ボランティア担当 藤根孝子、教育学部総務係ボランティア担当 菊地夕子

【話題提供者】

水戸市学校支援ボランティア 教育学部国語選修 3 年 廣川 康裕
茨城県内教育支援ボランティア 教育学部保健体育選修 4 年 井坂 絵美
教育実践総合センターボランティア担当 鈴木 一司

5 JICA への協力

国際協力機構(JICA)の課題別研修の一環として、ポリビア・エクアドル・パラグアイ・ペルーなど中南米地域の教師 14 名が茨城大学教育学部と附属中学校を訪問した。

目的 JICA 集団研修 「教員養成課程における教育改善方法の検討」コースおよび「南米地域 算数コース」の一環として、授業と施設の見学を行う。

日 時 2010 年 11 月 9 日(火曜日) 9:00~16:15

場 所 国立大学法人茨城大学教育学部および附属中学校

訪問者 「教員養成における教育改善方法の検討」コース(6名)
および「南米地域 算数コース」(8名)

研修協力内容

9 時より附属中学校の見学

午後は、教育学部 A201 において研修。

14 時 「本学部における教員養成カリキュラムについて」加藤 崇英 准教授

15 時 45 分よりグループごとに研修。

「本学部における教育実習について」 昌子 佳弘 准教授

「日本における算数・数学教員の養成の実情」 小口 祐一 准教授

6 「交通バリアフリー教室 in 茨大」の開催

「交通バリアフリー教室 in 茨大」が 11 月 21 日（日曜日）に関東運輸局茨城運輸支局、社団法人茨城県バス協会、茨城大学共催、茨城県社会福祉協議会後援により開催された。

企画協力

教育学部特別支援教育コース 仲島知幸、古川雄基、清水亜紀、荒川恵生ほか。

講話（1）笠間 雅弘氏 国土交通省関東運輸局消費者行政・情報科

「こころのバリアフリー」について

（2）斎藤 信之氏 スピニング・フープス・レボリューション

「車椅子生活の課題」

その他、車椅子体験、ノンステップバス体験、車椅子バスケットボール見学及び体験

7 平田オリザ講演会の開催

実践センター企画公開シンポジウム

「対話の時代の表現教育」演劇によるコミュニケーション教育の可能性を探る

日時：2011 年 2 月 26 日（土）13 時～16 時

会場：茨城大学教育学部 D201 教室

内容：13 時～14 時 30 分：平田オリザ氏による公開ワークショップ

14 時 40 分～16 時：パネリストによる実践報告と討論

講師：◎平田オリザ氏：劇作家、大阪大学大学院教授、内閣官房参与

パネリスト：

◎大淵秀代氏：群馬県立太田フレックス高校教諭（演劇入門、演劇表現担当）

◎山田宏平氏：劇団山の手事情社俳優、洗足学園音楽大学非常勤講師

◎正保春彦：茨城大学教授、茨城県立結城二高講師（心理学担当）

附属中学校生徒 15 名がワークショップに参加した。

全体の参加者は 190 名であった。